



国土交通省

NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課
(担当) 竹内、武田
(電話) 06-6949-6435

令和元年9月30日

こんなシゴトもあるんだ！

(SEA-GOTO)

児童養護施設「小鳩の家」で出前講座を実施しました。

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える内航船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの、いまだ約半数が50歳以上となるなど高齢化は著しく、大量離職に伴う担い手不足が生じないように十分な数の若年船員の確保が必要とされています。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、小・中学生を対象とした中長期的視点に立った取り組みとして、出前講座等を実施しています。

今般、児童養護施設の子ども達に海運と船員を紹介し、そして将来を考えるきっかけとしてもらうため、出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日：令和元年9月14日（土）

実施場所：社会福祉法人小鳩会 小鳩の家

〒524-0027 滋賀県大津市錦織1丁目14-25

対象者：児童養護施設「小鳩の家」「湘南学園」、児童心理治療施設「さぎなみ学園」

入所児童27名、施設職員等15名 計42名

講師：近畿内航船員対策協議会 会長 上窪 良和 氏、白石 紗苗 氏

講義内容：海運の重要性と船員の仕事について

配布パンフレット等：

- ・「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）
- ・「これが内航海運だ！」（ 〃 ）
- ・「船ってサイコー！」（一般社団法人日本船主協会）
- ・「2020年度版学校案内」（国立清水海上技術短期大学校）
- ・「SEA-GOTO ～海のシゴト ガイドブック～」（国土交通省）



「C to Sea プロジェクト」

海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！

海と船のポータルサイト「海ココ」

SEA-GOTO～海のシゴトガイドブック～も公開中



配布先：海運関係業界プレス

児童養護施設「小鳩の家」で出前講座を実施しました。

令和元年9月14日（土）、滋賀県大津市の児童養護施設「小鳩の家」において、近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：上窪良和 田淵海運(株)顧問）による出前講座を実施しました。

児童養護施設等を対象とした出前講座は、近畿内航船員対策協議会の取り組みとして、海運の役割や船員という職業を知ってもらうことで、子どもたちの視野を広げ、将来を考えてもらうきっかけとしてもらいたいという思いから実施しています。

当日は、同施設に入所する児童のほか、同じ大津市の児童養護施設「湘南学園」、彦根市の児童心理治療施設「さざなみ学園」に入所する児童も含め、小学生から中学生の27名と、施設職員、視察に来られた社会福祉協議会の職員も含めて、計42名が参加しました。

講座は、前半の部と後半の部に分けて実施しました。

前半の部では、豊富な国際航路の船長経験を持つ上窪会長を講師として、「外航」の世界の一端と、海に面していない滋賀県ではあまり馴染みのない「海運」について、私たちが不自由なく暮らしていくうえで、無くてはならない重要な役割を担っていることを説明しました。

後半の部では、近畿内航船員対策協議会の構成員である、白石海運（株）の白石取締役を講師として、「内航」の世界と、船員という職業の魅力について紹介しました。

その後に、講師2名に対する質問の時間を設けました。

【前半概要】



前半の部では、まず、外航船員の仕事の様子取材したDVD「海の上のプロフェッショナル」（一般社団法人日本船主協会作成）を上映することで、船員が各々の仕事を通して、自らの責任を果たしているというイメージを持ってもらいました。

そして、まわりを海に囲まれ、資源を輸入に頼っている日本にとって、船員が働いている海運という産業が重要であることに気づききっかけとするために、年間1,000万トン以上輸入している資源は何かということを出題しました。参加していたのは小学生も多く、少し難しかったかもしれませんが、答え終わったあとに、配付していた資料の（一社）日本船主協会発行「船ってサイコー！」を活用し、特に大型石油タンカー（VLCC）を示しながら、施設の中にあるものや、自分たちが着ている服は、タンカーが毎日、日本に運んでいる石油から作られているということを丁寧に説明し、もしタンカーが止まり、石油が日本に届かなくなると大変なことになるということを聞くと頷いていました。

次に、船は一度に大量の物資を運べるが、速度が遅く、物資の輸送に時間がかかってしまうことから、船員は、その間何日も船に乗ったまま仕事をし、船で生活をしなければならない、普通の仕事と違った特徴があることを説明しました。

そして、GPSが登場するまで、船員は天体を観測することにより、船の位置を把握していたことを紹介し、大航海時代から続く古くからの歴史を持つ仕事であるということを伝えて、前半の講義を終了しました。

【後半概要】

後半の部では、スライドを用いて、講義を進めていきました。

まず、内航船は外航船に比べて小さい船が多く、少数の船員で運航していること、様々な種類の船が働いていることを、「崖の上のポニョ」の登場人物の話や、船の写真を交えつつ、上窪会長と連携しながら解説しました。

さらに、「新幹線・地下鉄の車両」や「砂糖の原料」の荷役の様子と、小型タンカーがクルーズ船に横付けして、給油する様子をスクリーンに映して、クイズを絡めて紹介することで、船が様々な場面で活躍しているということをもっと実感してもらおうことができたようでした。

次に、船員の実際の生活をイメージしてもらうために、小さい船であっても、個室が完備していて、最近ではWi-Fiもつながり休憩中に使用できるということ、さらには、寄港地で船員同士がコミュニケーションを取っている様子を紹介しました。そうして、小さい船ならではのアウトホームで楽しそうな雰囲気を伝えるとともに、船員といっても、停泊中は観光や食事をするなど、ずっと船の上で生活しているわけではないということを説明しました。

次に、甲板部・機関部・司厨部のそれぞれの役割と仕事内容などを説明するとともに、操船や着岸作業をする様子、自衛隊から転職した船員が機関室で作業をする様子、地平線に夕日が沈む様子を動画により紹介しました。動画を見た子どもたちは、船員が頭をぶつけるくらい天井に近いところで作業していることに気づいてくれたり、夕日を見て「きれい・・・」という声が漏れたり、いろいろなことを感じてくれたようでした。

そして、自社の現役船員へのインタビューを交えながら、船員という仕事の魅力と、船員になるには海技免状が必要なことを説明するとともに、美容師やトラック運転者のように他にも資格が必要な仕事は多数あり、今聞いた船員という職業が決して特殊な仕事ではないことを伝えました。

最後に、講師から、「身のまわりのものが、皆さんのもりに届くまで沢山の人のお仕事関わっています。船員という仕事だけではなく、色々な仕事に興味を持ってもらいたいです。その中でも、もし船員という仕事に興味を持ってもらえたら、いっぱい質問しに来てください。来月に「海王丸」という船が神戸港に来ます。本物の船の上で、もう一度、会いましょう」とメッセージを送り、終了しました。

講義終了後の質疑応答の時間では、講師から、「どんな質問でも答えるので、難しい質問をして講師を困らせてほしい」と投げかけていたこともあったためか、講義の最初には緊張して手が挙がらなかったのは打って変わって、質問がたくさん出てきました。特にイルカに遭遇した話や、給料の話聞いた子どもたちは目を輝かせていて、船員という職業に興味を持ってくれたものと思います。

この日の話を聞いた子どもたちには、将来の目標を持ってもらい、そして出来るならば海の仕事に興味を持ってもらって、より一層学業に集中して取り組んでいって頂きたいと考えています。10月13日(日)には、出前講座を実施した施設の子ども達を海技教育機構練習船「海王丸」に招待し、楽しんでいただければと、準備を進めています。

近畿内航船員対策協議会では、これからも子どもたちのために、施設を対象とした取り組みを進めていきたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)

